

問 エアコン購入補助の要件緩和を

答 広く住民に利用されるよう検討



新政とうかい
おち 越智 たつや 辰哉 議員

問 令和5年度からスタートした「省エネ家電導入促進事業」のエアコン補助実績は。

答 想定数に関してはエアコン・冷蔵庫を区分しておらず、令和5年度は想定数300件に対して実績189件（エアコン130／冷蔵庫59）、令和6年度は想定数250件に対して実績154件（エアコン78／冷蔵庫76）となっている。

問 2年連続で想定を下回ったが、要因をどう分析しているのか。

多段階評価で「4つ星以上」という要件がネックになっていると



補助事業の対象となっているエアコン

考えるが、村と同様に「4つ星以上」を要件とする自治体はあるか。

答 指摘のとおり、「4つ星以上」という高い補助基準が申請件数の伸び悩みの理由であると分析している。事業を開始した当初は同様の基準を設けている自治体があったが、現時点で「4つ星以上」を求めている自治体はほぼ無い状況である。

今後は、脱炭素化や省エネ意識向上の視点に立って、広く住民に利用される制度となるよう検討していく。

問 原電線から久慈川沿線の振興策を

答 地域の意見を伺い検討する



新政とうかい
ささじま 士郎 議員

問 新たな計画「まちづくりの羅針盤」の中には、原電線から久慈川地区のハード整備が見当たらない。また、過去10年の駅東・駅西・中央地区などと原電線から久慈川地区のハード整備に費やした総額はいくらか伺う。

答 「まちづくりの羅針盤」は、各ビジョンの実現に向けた村・村民・事業者の取り組みの方向性を記載し、個別具体的なハード整備についての記載はない。必要に応じて都市計画マスタープランの改定等での検討もあると考える。区画整理地内で

の総額は約91億円、原電線から久慈川地区は約13億円である。

問 同じ村民でありながら地区によって事業費に格差がある。村全体を見た整備が求められる。羅針盤は、方向性を示すもので具体的には都市計画マスタープランで取り組むとのことであればいつ取り組むのか。

答 今年度から2年をかけた必要な改訂を行う。検討してきた事項や把握している地域課題など地域の意見を伺い進めていきたい。



延伸が望まれる内宿の原電線丁字路